

(3) 越智今治ブロック（今治市、上島町）

～産地づくり～

西日本豪雨災害からの復興とさらなる発展のため、かんきつ類などの果樹のブランド産地を目指し、県オリジナル品種や既存の主力品種を最大限に活かせる栽培技術の確立を強力に推進するとともに、生産技術の高位平準化にも取り組みます。また、県オリジナル品種等の導入が進む野菜・花き、新たに産地化が期待されている「オリーブ」や「醸造用ぶどう」など、生産者の所得確保・向上につながる品種・品目の推進により、地域の特色を活かした産地振興に取り組みます。

～推進品目や産地づくりの方向～

〇マルドリ栽培によるブランド果実生産とかんきつ産地の振興

【取組】

- ①「愛媛果試第28号（紅まどonna）」「はれひめ」の品質向上を図るマルドリ栽培の普及
- ②ブランド果率を高めるマルドリ栽培のモデル園の設置
- ③「愛媛Queenスプラッシュ（甘平）」の出荷量を高める栽培技術を実証するモデル園の設置
- ④低コストでブランド果率を高めるモデル簡易ハウスの設置

【成果】

- ①「愛媛果試第28号（紅まどonna）」「はれひめ」のマルドリ栽培導入面積：累計7.9ha（前年産比123%）
- ②水田転換園など多様な栽培条件のマルドリ栽培モデル園の設置：8ヶ所
- ③「甘平」の裂果軽減対策技術の実証の設置：5ヶ所
- ③「愛媛Queenスプラッシュ（甘平）」の出荷率：0.8%（前年産0.6%）
- ④低コスト簡易モデルハウス園の設置：1ヶ所



マルドリ栽培モデル園



甘平裂果対策試験

〇しまなみ産「レモン」の振興とブランドカアップ

【取組】

- ①レモン産地活性化検討会による7～9月に出荷する夏季レモンの生産推進
- ②施設栽培を活用した夏季レモン栽培の技術確立と普及
- ③夏季レモン栽培に取組む新規栽培者の掘り起し
- ④夏季レモンのブランド力向上

【成果】

- ①レモン産地活性化検討会の開催：2回
- ①研修会等を通じた栽培管理指導：10回
- ②施設栽培による夏季レモンの栽培実証ほの設置：3ヶ所
- ②ハウスの冬季保温と着果負担軽減、農薬散布体系の改善により、夏季レモン2.9 t（前年産比193%）を出荷
- ③新規栽培者向けの説明会を開催し、上島町で新規施設栽培者2名を確保し、既存生産者3名が来年度に施設増設予定
- ③栽培面積：70ha（前年産比109%）
- ④市場調査のほか、仲卸、飲食店、個人消費者へアンケート調査を実施（品質が高い等高評価）



実証圃での栽培指導



レモンハウス栽培講習会

○地産地消の推進に向けたエコ栽培農産物や花きの栽培力アップ

【取組】

- ①地産地消の推進に向け、野菜等新たな商材の生産支援
- ②小麦の栽培面積拡大と需要開拓
- ③エコ栽培農産物生産の取組推進
- ④シキミの栽培技術向上を推進

【成果】

- ① 地元直売所向けの新たな商材として、セル苗による「媛かぐや」の栽培が始まり、1.6tを出荷販売
- ①② 地元高校生や農家女性を対象とした「媛かぐや」や小麦の調理実習会を開催
- ② 令和4年産小麦：栽培面積47ha（前年産比204%）は種
- ② 小麦の地産地消検討会や製粉業者との意見交換会を開催
- ② パン製造業者への意向調査を行い、3事業者が試作を開始
- ③ エコえひめ認証制度に基づく生産登録数：43件（前年46件）
- ④ シキミ栽培講習会の開催：1回



媛かぐや調理実習



シキミ栽培講習会

○地域振興野菜・花きの生産推進による農家所得の向上と産地振興

【取組】

- ①さといもの機械化一貫体系の推進
- ②甘長とうがらしの産地強化
- ③新花材「ピットスポラム」等の生産振興

【成果】

- ① さといもの機械化一貫体系の推進
県補助事業等を活用し生産性を高める移植機5台、掘取機5台等18台の農業機械を導入
栽培面積：33ha（前年産比122%）
- ② 甘長とうがらしの産地強化
栽培者数：38人（前年産より2人増）
栽培面積：1.7ha（前年産と同様）
単収（整品）：2.6t/10a（前年産比141%）
- ③ 新花材「ピットスポラム」等の生産振興
栽培者数：121人（前年より7人増）
栽培面積：7.9ha（前年産比105%）



さといも
現地栽培指導



花木剪定講習会

○「オリーブ」と「醸造用ぶどう」の新たな産地の育成

【取組】

- ①実証圃設置による栽培技術の実証
- ②栽培体験会等による新規生産者の掘り起こし
- ③研修会等による生産者の技術力向上支援
- ④関西等飲食店における品質調査と販売拡大

【成果】

- ① 実証結果をもとに、オリーブの栽培管理マニュアル、醸造用ぶどうの令和4年版の栽培指針と防除暦を作成
- ② オリーブ、醸造用ぶどう共に、新規栽培予定者確保：3人
- ③ 生産量は、オリーブで管理適正化により3t（前年産比150%）、醸造用ぶどうで生産者の連年安定生産に対する意識が高まり6.6t（前年産比103%）に増加
- ④ オリーブオイル、ワインとも認知度や評価が向上し、飲食店で取引が新たに始まる（8店増加）



醸造用ぶどう栽培体験
（防鳥ネット設置）

～地域づくり～

農業・農村を支える多様な担い手を確保・育成するため、新規就農者や農業参入企業等に対し、関係機関が連携して研修制度や受入体制の充実・強化に取り組みます。また、グリーン・ツーリズムによる起業活動等を支援するとともに、女性の農業経営への参画を促進し、女性農業指導士とともに優れた女性経営者を育成します。さらに、集落ぐるみで取り組む鳥獣被害対策など、地域を取り巻く課題に対応した支援を強力に展開します。

～推進対象や地域づくりの方向～

○意欲ある就農者のスキルアップによる担い手の確保と育成

【取組】

- ①県内外からの就農相談への対応
- ②就農啓発講座の開催や農業の魅力発信活動の開催
- ③就農希望者が農業技術を学ぶための研修受入体制の強化
- ④新規就農者の早期経営安定化支援
- ⑤将来の地域リーダーとなる青年農業者や女性農業者のスキルアップを目的とした各種講座の開催

【成果】

- ①関係機関と連携して、オンライン就農相談会等に参加し、延べ31件の相談に対応
- ②県立今治南高校の生徒と協力して、地元メディアを通じた農業の魅力発信活動を開催：3回
- ③地域農業育成室岩城駐在を地域で4箇所目となる次世代人材投資資金給付対象の研修機関に認定
- ④JAおちいまばりにおいて研修対象作物や研修生指導農家を増やし、2人が研修を開始
- ④早期に経営安定を図る必要のある新規就農者に対し、重点的に個別指導を月平均19.4回(年間延べ175回)実施。うち1人の指導対象者において主幹品目の収量が昨年対比で2倍に増加
- ⑤法人化支援に向けた個別面談を計7回(延べ11人)開催
- ⑤女性農業者等を対象とした、かんきつ類栽培講習会や農作業安全講習会等の開催：10回(延べ56人)



新規就農者指導



魅力発信活動
(さといもの収穫)

○水田を活用したスマート農業の実現

【取組】

- ①ドローンを活用した防除作業の省力化技術の普及
- ②営農データの「見える化」や生産性向上に向けて営農管理システム等の導入推進

【成果】

- ①ドローンを活用した防除
水稲への普及面積69.2ha(前年対比142%)に拡大
さといもへの導入に向け省力効果を検証
実証面積0.9ha、防除時間50分(80%省力化)
- ②営農管理システム
電子化されたほ場地図と作業記録、収穫量等をクラウドで一括管理し、複数ほ場の最適な営農計画を策定するシステムの導入：1集落営農組織
営農管理システムとICTにより繋がったコンバインから得られる食味・収穫量から次作の栽培管理を改善する取組みを開始：1集落営農組織



さといもドローン防除



システムとインターネットで繋がったコンバイン

○地域に根差した滞在型グリーン・ツーリズムの推進

【取組】

- ①新たな民泊会員及び体験メニューの掘り起こし
- ②地域内の団体（愛媛DMO、(株)わか等）との連携
- ③コロナ禍における教育旅行の受入体制の整備
- ④しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会の自立化促進

【成果】

- ①新たに民泊を開始：1ターンの農家3戸
- ①新たに2メニューの体験を追加「草木染」及び「竹炭づくり」
- ②サイクリングと組み合わせ可能な体験を選定し、国内外とのオンライン商談会等でPR
（レモン狩り、塩生キャラメルづくり、レモン懐石）
- ③「新型コロナウイルス対応ガイドライン」を策定し、屋外体験に加えて一部の屋内体験での受入を再開
- ③教育旅行の受入実績：18校（前年比150%）
- ④これまでしまなみ農業指導班が主体となってきたグリーン・ツーリズム運営事務等を来年度から、しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会に主体を移す体制を構築
- ④協議会運営マニュアルの作成地域おこし協力隊と連携強化



専門家招聘ツアー（レモン懐石）



みかん狩り体験



加害サルの出没状況を情報共有



ICT活用捕獲檻周辺のドローン空撮画像



かんきつ園でドローンによる小型鳥類の追い払い



農道整備



再編復旧（上浦地区）

○実践集団の育成と捕獲技術の向上による鳥獣被害対策の支援

【取組】

- ①鳥獣害対策に取り組む集落の掘り起こし
- ②防護や捕獲に取り組む既存集落の活動支援
- ③鳥獣害対策に取り組む新規実践集団の育成
- ④防護や捕獲に取り組む既存実践集団の活動支援
- ⑤新たな捕獲技術の検証
- ⑥新たな捕獲者の確保・育成
- ⑦鳥獣害対策におけるドローンの活用を検討

【成果】

- ①鳥獣害対策（サル対策）に取り組む新規集落の掘り起こし及び対策支援：1集落
- ②リアルタイムで捕獲檻に入った加害獣をカメラで確認しながらリモートで扉を閉めるICTを活用した複数頭数を同時に捕獲できる大型捕獲檻を増設：1台
- ③イノシシから野菜や柑橘園を守る取組みを始めた新規実践集団：1集団
- ④加害獣から作物を守る取組みを強化した既存実践集団
イノシシから柑橘園を守る共同柵管理を実践：2集団
加害ニホンザル群の捕獲実践：1集団
イノシシから水田を守る実践：1集団
- ⑤侵入防止ネットと通電線、防草シートが一体化し、架設作業が容易な新資材を活用した実証展示ほを設置：1ヶ所
- ⑥新規の狩猟免許取得者：4人
- ⑦ドローンによる空撮資料を活用し、集落ぐるみの鳥獣害対策へ意識を醸成

～農業・農村の整備～

○生産基盤の維持・強化

【取組】

- ①優良農地や農道・水路等の農業用施設の適正な保全
- ②地域の新たな担い手の確保、定着につながる樹園地の整備

【成果】

- ①通作条件の改善を図り、営農効率の向上を推進するため、基幹農道を整備：歌仙2期・3期地区（628m）
- ①農業用水の安定確保を推進するため、農業用水施設の長寿命化対策を実施：3地区（歌仙、頓田川沿岸、蒼社川）
- ②再編復旧上浦地区井口工区の工事着手
上浦地区受益面積6.8ha（うち井口工区1.8ha）
工事完了：令和4年度予定
- ②上浦地区早期復興ワーキングチームの設置（令和3年6月24日）

○安全・安心に暮らせる農村の整備

【取組】

- ・地域の貴重な水源であるため池の計画的な改修やハザードマップの作成による防災減災の向上と農業用水の安定的供給

【成果】

- ・農業用水の確保のために、計画的にため池整備を実施：5地区（宅間、犬塚、山之内、波止浜、亀岡）
- ・愛媛県ため池保全サポートセンターを効果的に活用し、ため池の一層の安全性向上を推進：28地区（今治市27地区、上島町1地区）



ため池維持管理活動

○農業・農村の多面的機能の維持発揮活動の支援

【取組】

- ・多面的機能支払い制度や中山間地域直接支払制度の活用による、地域ぐるみで行う共同活動支援と農村地域の多面的機能の増進

【成果】

- ・水路の泥上げやため池堤体の草刈りなど、多面的機能を維持する活動を実施：27地区（今治市26地区、上島町1地区）
- ・令和3年度末に活動終期を迎える組織へ、組織の課題把握や対策の検討など、継続支援するため先回り支援を実施：14地区（今治市）
- ・直営施工など地域の実情に応じた取組を促進：22地区（今治市）



共同活動
（水路の泥上げ）

～地域の特性と時代の変化に柔軟に対応し畜産基盤の継承を図ります～

○次世代の担い手への経営継承支援

【取組】

- ・労働負担の軽減や省力化に資する機械等の導入を希望する農家に補助事業や資金の情報提供と設備導入の支援

【成果】

- ・地域の畜産クラスター協議会と連携し、畜産基盤施設再生支援事業により、鶏舎内細霧装置を設置：1農場
- ・夏季の暑熱対策による生産性の向上や労働時間の軽減支援：1農場
- ・補助事業支援や資金の情報提供：4農場



鶏舎内細霧装置

○地域畜産ブランドの販売力強化

【取組】

- ・県開発ブランドの愛媛あかね和牛の生産体制強化のための衛生管理技術指導

【成果】

- ・定期的な衛生検査により農場内の浸潤状況を把握：6農場
- ・検査結果に基づき、感染予防対策を指導：6農場
- ・対象疾病の防除による生産性の向上を図り、安全な畜産物の生産と供給に繋げる：6農場



愛媛あかね和牛

○家畜伝染病発生予防のための技術指導等

【取組】

- ①消毒や野生鳥獣の侵入防止等の飼養衛生管理の技術指導
- ②家畜伝染病のまん延防止体制の推進

【成果】

- ①県内での家畜伝染病の発生を含め国内外の家畜伝染病の発生状況の情報提供と注意喚起を実施
- ①立入検査により野生動物の侵入防止対策や消毒等の飼養衛生管理の徹底を図るための衛生指導を実施：32農場
- ②家畜伝染病予防法に基づき、養豚農家で予防的ワクチン接種を実施：3農場（令和3年10月～）
- ②農場バイオセキュリティ対策強化支援事業により、消毒機器を整備：2農場（養鶏農家）



整備した消毒機器